

どうじん

第 10 号

発行日 昭和59年12月20日

編集発行

北海道腎臓病患者連絡協議会

札幌市中央区北1条西10丁目

ダイヤパレス北1条605

TEL (011)261-3950

印刷所

北海道きかんし印刷所

昭和59年 初冬号

腎提供登録促進 全道一周キャラバン・ キャンペーン特集



北海道腎臓病患者連絡協議会

今、注目の《ロビロン[®]》は こんなにすばらしい繊維です。

綿の3倍ウールの2倍の保温性

健康保温サポーター

《ロビロン[®]》の魅力

1

保温力バツゲン

外気温が寒くなればなるほど保温力が高まるので、寒さに強くなります。

外気温18℃
の場合では



《ロビロン[®]》は、
快適、さわやか!

他の繊維は、
寒さを感じます。

2

湿気を吸収しないのでムレにくく
いつもサラッと快適な肌ざわりが
保てます。



3

健康によいと言われるマイナス静
電気を発生、血液の循環を促進さ
せます。



こし用

サイズ:フリー
定価:3,800円 色:アイボリー



はらまき

サイズ:フリー
定価:3,800円 色:ホワイト



ひじ・ひざ用

サイズ:M 定価:1,500円
サイズ:L 定価:1,800円 色:アイボリー



手首用

サイズ:フリー
定価:1,500円 色:ホワイト



足首用

サイズ:フリー
定価:1,500円 色:ホワイト



紡毛用ひじ・ひざ用
サイズ:M・L
定価:980円 色:ホワイト

お申込は、腎友会商事へ

札幌市中央区北1条西10丁目
ダイヤパレス北1条605号
☎ (011) 261-3922

報告

腎登録促進全道一周

キヤラバン・キヤンペーン

無事二、〇〇〇キロ走破！ 会を挙げての協力実を結ぶ

一つの仕事を成し遂げた後は、爽快なものである。健康体だった頃、スポーツの後のこころよい疲労感と満足感を思い出した。

今回のキヤンペーンは、我々透析患者にとっては一つのカケであったかもしれない。しかし、健康人と同じ、いやそれ以上のハードスケジュールをこなした。資金も多くの方々のご協力を戴いた。各地で仲間のご支援を戴いた。隊員諸氏も良く耐えぬいた。改めて皆さんに心から御礼を申し上げたい。そして、我々の成果は今、温かい人間愛、同胞愛に支えられ腎バンク登録となつて、確実に実績を挙げつつある。

初の企画に準備進まず

賛助金の応援に力入る

は、腎移植しかない。全国的には、法人格を持った腎バンク、腎移植普及会など多くの都府県で登録体制が整っている。

しかし、本道には北大医学部泌尿器科の中に任意団体として「腎移植をすすめる会」がとぼしい予算で運営されている。

又、厚生省が全国九ブロック、十四ヶ所に設置を予定している地方腎移植センター

も、すでに九ヶ所も設置されているのに北海道にはまだ予定もない。

このような現状が、一昨年までの本道の現状であった。

しかし、昨年あたりから、具体的に両施設の本道設置が、腎バンクに関しては、道内金融界の人々、マスコミ関係、医療関係者、理解ある企業経営者のご努力により期

慢性腎不全となり透析導入を余儀なくさ

れた患者にとつて、それから抜け出す方途

成会が設けられ、前北洋相互銀行の会長の
大塚武さんが発期人代表になって、財団法
人をめざし、基金募集活動が、同銀行内に
事務局が設けられ、活動を開始した。

また、腎移植センターも、すでに七プロ
ック、九ヶ所に設置され、本年度設置につ
いて、四国と北海道の両候補地において誘
致運動が盛んになり、本道に於ては、道庁
関係者、道議会関係者、札幌市の理事さん
また、透析医療関係者（この中で我々患者
においても、道議会に対し、始めての請願
を多くの患者の署名運動と相まって、一一、
三三四の署名簿とともに議会に提出され、
昭和五十八年三月開催された第十四定例本
会議北海道議会で採択された）の努力によ
り、厚生省が本道に第十番目として認める
こととなった。

そして、腎バンクは、五月二十八日に正
式に二、四〇〇万円の基金をもって財団法
人としてオープンした。

地方腎移植センターは、色々の病院の中
から、市立札幌病院が受入れる事になり八
月一日開設、十一月一日から実質的に活動
を始める事になった。

我々、本道に在住する二、五〇〇人の透
析患者にとって、長年の念願であった両施
設がオープンされる事は、大きな喜びであ
り、道腎協にとって大きな活動の柱が立派
に打ち立てられ、役員会に於て共に喜び合

ったものです。

しかし、我々患者のために、多くの人の
努力があり、我々が座しているだけでは、
申し訳けない。なんとか患者が出来る事が
ないかと役員会で話し合い、今年六月十日
の道腎協総会に於て、全道一周のキャラバ
ンキャンペーンを実施してはと提案され、
万場一致で実行が決議された。

さて、時期はいつ、資金はどうする、隊
員は果しているのか、始めての事で事務局
も思案、しあん、シアン。

夏の季節がよい、自己資金の不足分はカ
ンパをお願いしよう。人選は体調の良い人
将来活動してもらうために、若い人に勉強
してもらおう等々考えて、趣意書作りを手
始めに、活動開始。各会社を手分けしてカ
ンパのお願い。道透析医会が三十万協力し
ていただけの事で、一安心。断わられ
たのは数団体。なんとかメドがついたので
入選に入り、各地方腎友会とのスケジュ
ルの調整、チラシ、ポスターの制作、マス
コミ関係者への協力要請など、出発前日ま
で準備がかりつきり。その間、通常の会
活動もある。少しばて気味だが、明日から
は頑張ろうと出発前夜はみんな緊張してい
たようだ。

7/22 朝日新聞

「じん臓提供登録を」 闘病の7人が 全道巡り訴え

24日から

になる。
キャンペーンをするのは、北
海道腎臓病患者連絡協議会（岩
崎兼会長、会員千五百人。道内
には、慢性腎不全で週二、三回
の人工透析を受けている患者が
約二千五百人おり、そのうち八
百人が、腎臓移植を希望してい
る。

腎（じん）臓病で人工透析を
受けている患者らが、二十四日
からキャラバンを組んで全道を
巡り、腎提供登録を呼びかける。
五月末に北海道腎臓バンクが発
足、八月には市立札幌病院に道
腎臓移植センターが整備される
ことになっており、それを記念
してのキャンペーン。患者らは
途中で透析を受けながらの訴え

昭和59年 7月22日 朝日新聞

予想もしない見送りに 隊員一同重貴感ず

七月二十四日（火）、札幌晴、市立札幌病院
の正面玄関に集合、出発は八時四〇分、八
時頃から、第一次隊員が集まる。岩崎道腎

協会長、庄司札幌腎友会々長、ほか、役員
の方々、透析の前の時間をさいて見送りに
来てくれる。市立で透析する患者さんもバ

ジャマ姿で見送り、透折の準備で忙しい透折室の看護婦さんも見送りにわざわざ来て



市立札幌病院前での出発式中村、住野、鈴木、岡根



出発式で会員、患者、看護婦さんも多数参加

藤さん、小坂さん、石田さん、等々、いつ

「腎臓移植に理解を」

24日から全道キャラバン

患者の団体

腎臓病患者で組織する道腎臓病患者連絡協議会(岩崎薫会長、会員千五百人)は、腎臓提供者の登録促進を求めて二十四日から全道キャラバンキャンペーンに乗り出す。道内で人工透析を受けている人の三割近くが腎臓の移植を希望しているといわれており、

各市役所、町村役場を訪問して協力を求め、街頭でも腎臓移植への理解を求め、腎臓の病気のため人工透析を受けている人は現在、道内で約二千五百人。毎年二、三千人ぐらいつづ増えており、四、五年後には三千人を超えるのではといわれている。同

連絡協議会によれば、このうち三割の患者は腎臓移植を希望しているという。これに対し、道内の腎臓提供登録者は三千七百人。全国的にみても登録者は少なく、道内の場合は最低十万人の登録が必要といわれている。こうした中で今年五月、腎臓移植普及を啓発するものがネ

今回のキャラバンは、この二つの組織の発足を機に、腎臓移植普及を啓発するものがネライ。キャラバン隊は二班にわかれ、第一陣は二十四日午前八時四十分、市立札幌病院前をスタート。道央、道東、道北を回って二十七日札幌へ戻る。三泊四日の日程。第二陣は来月十一日出発、道南を三泊三日で回る。隊員たちは、いずれも透析が必要な患者たちで、途中、人工透析を受ける時間を設けている。走行距離は一日百九十キロ、延べ千四百キロ近くにも及び、道内五十市町村を訪れることになる。

もお世話になっている顔なじみの看護婦さん。また、腎センターに入院している患者さんは、屋上から見送ってくれている。桜木看護課長さんも心配して来てくれる。出発時間が近づくと、報導関係者がワットト押しかけて、NHK、HBC、STV、UHBなどのテレビ会社、新聞社の方々も盛んにフラッシュをたく。まず、庄司会長が司会役で出発式を進める。見送りが百人近いし、フラッシュと光りとテレビカメラの砲列で少々あがり気味。次いで、岩崎会長が、大変力強い(絶叫に近い)声で、隊員を激励してくれる。(会長留守番たのみます。それにまだカンパ回りもあるし、申し訳けない。)次いで、看護婦の林さんから隊長に花束

が贈られる。患者を代表して事務局の浜松嬢から花束。その花束を手に、中村隊長が出発の挨拶と隊員の紹介がある。さあ、出発の時間が迫る、車に乗り込む、エンジンスタート。車が動き出す。その時、屋上からテープが数十本、車に投げおろされる。さあ、これから二、〇〇〇キロ、一路、苫小牧市に向う。5号線から、南郷通りに入り、高速を利用。恵庭、千歳は第二次の帰りだ。予定通り、苫小牧市役所に到着。ロビーで広岡副会長、つくし会の元村氏、吉田さん、藤原さんが待つていてくれる。さっそく合流して、市長応接室へ。宇治助役さん、占部環境衛生部長さん等が応対して下さる。今回

昭和59年7月22日 毎日新聞

の目的を話し、腎提供登録への協力、ボスターの掲示のお願い、我々が本年度総会で議決した「我々の要求」を手渡し、協力を要請。助役さんから激励と身体の心配をして戴いて、少々、始めての事で時間がオーバーしたが、次の苫小牧民報社に急ぐ。

苫民では報道部長の角銅さんが我々隊員と応対してくれる。地元につきし会のメンバーも一緒、関係資料を渡し、新聞社の協力をあおぐ。我々は街頭で短い時間、しかも少数の人にしかP・Rできない。どうしても地元新聞社の協力で各地の多くの人々に今回のキャラバンの趣旨を理解してもらい、協力を戴かなければならない。

次は、初めての街頭キャンペーンだ。苫



苫小牧駅前での最初の街頭キャンペーン実施

小牧駅前である。午前十時すぎで、人通り

も少ない。それでも乗降客や、地元の人々にチラシ、ティッシュ、子供づれには風船をあげ、隊長がマイクを持ってアイサツを始める。事務所で浜松嬢が吹き込んだテープを廻す。仕事なのか、コック姿の青年が

広報車に走り寄り、「登録しようと思ってい

ましたが、どうしたら良いのですか」と息

せき切って話す。「ここに申込みハガキがあ

りますからこれに記入して送って下さい」

「友人にも呼びかけたので二、三枚下さい、用紙を手渡し、感謝を申し上げる。こ

れは幸先がいいぞ、これからもこう云う方

々が沢山あらわれてほしいと願ひ、切り上

げ、次の訪問地、鶴川町へ出発。

予定の時間通り、鶴川町役場に着く。前

日、隊長の友人、鶴川町議の土井重男氏に

訪問する旨を話し、町長に面会できるよう

お願いしておいたせいか、胆振町村会の会

長でもある平野町長が待つておられ、さつ

そく挨拶を述べ、お願いをする。患者の現

愛の心求め全道キャラバン

腎臓透析患者ら四人 臓器提供訴える

「愛の心を腎(ジン)臓バンク」と、腎臓透析患者が臓器提供登録を求めて二十四日朝、全道半キャラバンに出発した。

一行は道腎臓病者連絡協議会の中村信夫事務局長を隊長に、患者者ら四人、二十七日まで国道沿いに日高、十勝、釧路、網走、上川、空知の各管内市町村を巡回。市街地ではマイクで登録を呼びかけ、病院で患者らを励ます。

この日は午前八時半、市立札幌病院前で中村隊長が「なんとか道民の理解を得て移植登録者を増やしたい」とあいさつ、見送りの患者、看護婦の励ましを受け出発した。第二次隊は八月十一日から道内を回る。

この全道行脚は、腎移植を進める財団法人北海道腎臓バンクが五月二十八日発足、腎臓移植センターがこの八月に市立札幌病院に設



腎臓提供の登録者を求めて札幌を出発するキャラバン

昭和59年7月24日 北海道新聞



日勝峠で記念ショット、これから十勝の国に入る。

つくし会からの連絡で、宮田町長が我々を迎えて下さる。今回の計画を話し、これからも増大する患者に町長も心配して、登録の促進に大いに協力を約束してくれる。冷えた麦茶を戴いて、次の町、日高町に向う。

天気はうす曇り、暑くもないし、窓からの風も快適、エンジンも快調。二風谷のアイヌ部落をぬけ、一時間あまり走って山中の町日高町に着く。

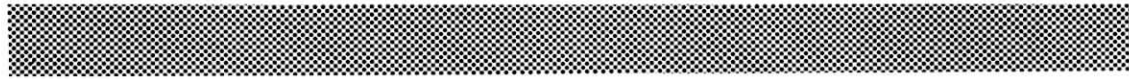
役場は、国道からちよつと入った所、ようやく捜して、役場に着く。ここもつくし会から連絡が入っていたので、西島町長が迎えて下さる。我々のスケジュールを心配して、患者さんが大丈夫ですかと聞かれる。ここでも町長さんの登録推進の協力を得る

事ができる。広報紙にもさつそく掲載しましょうと担当課長を呼んで指示して下さい。峠は気をつけて下さいよと心配をいたしたい、お別れし、日勝峠めざして出発。

次の清水町へは日勝峠をはさんで約六十キロの走行、峠のこちらは晴れていたが、峠は雨、ちよつと見晴らしはわらかったが、全員おりに記念撮影。一路峠を下る。愈々、十勝の国に入る。

清水町も雨、役場では、あいにく町長は不在、総務部長さんに面会をいただいで色々協力を仰ぐ。「町長にたしかに伝えましょう」とお話をいただいで、芽室町へ。

芽室町へは四時三十五分着。ここも町長不在で助役さんに会っていただく。ここも町長車に戻ると町の人が、キャンベーン車を



八月十一日から十三日まで道央、道南を回る二次隊に分かれ、延べ九人が人工透析を受けながら、市役所や役場を訪問、PRの協力をもに街頭でシン臓登録を訴える。

ゆから

☆道民にシン臓の提供を呼び掛けよう」と、道腎臓病患者連絡協議会(岩崎兼会長)主催の全道一周キヤラバン隊「写真」が二十四日朝、札幌を出発した。

☆これは財団法人・道腎臓バンクと腎臓移植センターの札幌市立病院設置を記念、シン臓の理解と協力を求めるのが狙い。キヤラバン隊は同協会の中村信夫事務局長を隊長に、二十四日から二十七日まで道東、道北を回る一次隊と、

☆出発式はこの日午前八時半から札幌市立病院前で、会員や看護婦ら約百人が見守る中、行われた。まず岩崎会長が「より一層道民の理解を得るよう、元気に行ってください」とあいさつ。中村隊長が「がんばって行ってきます」と答え、一次隊三人のメンバーとともにワゴン車に乗り込み、拍手のなか、キヤラバンの途についた。人口透析を受けている患者は道内に二千五百人いるといわれ、うち八百人がシン臓の移植を希望している。

(札幌)

見て待つており、年寄りだが役に立つなら登録したいとカードを受取っていた。広市へ出発。

町の中をマイクで流し、今日の目的地、帯

十勝腎友会の再建

困難ながら新会長約束

すでに五時をすぎている。市役所は終わっている、地元腎友会の約束の場所駅前に向う。ここで、地元腎友会の加藤さん、

新会長の新倉さん、会員三人が出向かえてくれる。さっそく、駅前の商店街通りで街頭キャンペーン。今日の最後のキャンペーンなのでみんなが頑張る。人通りも多い。一時間あまり、続けて、予定のチラシも無くなり、地元十勝毎日の取材をうけて、無事終了。まっすぐ、十勝毎日新聞社に向う。林副社長にお会いし、協力をお願いし、取材を受けて、明日の朝刊に載せていただけたとの事、今日の日程を終え、一路、宿舎の十勝川温泉へ。

今夜の宿は、ホテル大平原。地元の役員との夕食を兼ねた交流会を前にザンブと温泉に飛び込む。初日であり、緊張のせい、みんな、つかれた様子がない。

会長の所に電話を入れ、無事つけた事を

報告、テレビ、新聞に大きく報道された由。こちらは残念ながらテレビのニュースを見ていない。

しかし、今回のキャンペーン、NHKが前日も、キャンペーンの予告を報道してくれたし、道新、読売が同じく計画を掲載してくれた。STVラジオが出発当日の朝の番組の中で、隊長のインタビューを流していただいた。我々の道民に接する時間や人数は限られたものだが、マスコミが報道していただくと、多くの道民の目や耳にふれる事ができる。誠に有難い。何にもまして、大きな力だ。

今日の行程は三〇〇キロ、運転を担当した住野隊員、なんとか頑張れると云ってくれるが、ヘマト三十八なので持ちこたえてほしい。

夜の食事は、地元腎友会の三名が参加。食事をとりながら、再建問題や、道内の状

腎臓提供に登録を

道腎連のキヤンペーン 駅前で協力呼びかけ

腎臓提供の登録をいと、道腎連患者連絡協議会（岩崎 薫会長）の全道キャンペーンが二十四日から始まった。初日は苫小牧市役所を訪れて協力を訴え、駅前でチラシを配布してPRした。二十七日まで道内を回る。

慢性腎不全で人工透析を受ける患者は、全道で二千五百



腎臓提供登録に協力をいと訴えるキヤンペーン隊

人。このうち約八百人が腎臓移植を希望している。強い要求にこたえて今年五月には財団法人北海道腎臓バンクが正式に発足、八月一日には市立札幌病院内に腎臓移植センターが開設されることになった。

全道キャンペーンはこれを記念したもので、連絡協議会の中村信天事務局長を隊長とする四人のキヤンペーン隊が二十四日午前八時半、市立札幌病院前を出発した。

苫小牧は第一の訪問地。市役所を訪れた一行は、宇治助役に「市でも積極的に協力してほしい」と要請。同助役は「苫小牧にも人工透析患者はおり、広報をPRしたい。がんばってほしい」と協力を約束し、励ました。

キヤンペーン隊はこのあと駅前までチラシを配布。二十四日

には鶴川、平取、日高町などを通じて帯広まで、二十五日には釧路方面など、二十七日まで道内を一周する。

死後の腎臓提供登録は十六歳から出来る。同連絡協議会は当面一万人を目指しており、六月末現在の登録者数は三千七百六十三人。北海道腎臓バンクは札幌市中央区北一条西七丁目、おおわたビル内、電話011-261-2033。

全国初の試み

各地、各界の力で見事達成

道腎協会長 岩崎 薫

私共慢性腎不全透析患者にとって待望久しかった「腎バンク」が五月二十八日「移植センター」が八月一日付で発足致しました。

吾々恩恵を授かる患者会として、この二つの組織が充分機能することを願ひ何等かの役に立つこと願ひ、このたび会員によるキャラバン隊を編成し全道一周キャンペンをしない延々二、〇〇〇キロに亙り道内一周を第一次第二次に分けて走破し炎天下の最中全員が元気で無事完行いたしました。今日こゝに至るまで関係の皆様からいろいろご厚配をお願い致しましたことを改めて感謝申し上げます。

また出発に際しましては、早朝市立病院の正門前に行ないましたが、当病院の関係者の皆様、特に勤務中の合間を縫って看護婦さん方多数のお見送りを受けました。この出発式の模様は、各新聞社並にNHKを始め各民放社の報道関係者の取材攻勢も活況に行なわれ、全道一斉にPR放映されました。その結果一般の方々もいやがうえにも高まり各市町村においても今回のキャラバンキャンペンの趣旨が徹底されて大きな理解を深めました。

なお今回のキャンペンの計画実行に際しまして賛助金のご協力方を関係筋の皆様にお願ひ申上したところ、北海道透析医会の先生方をはじめ各銀行様、道議会議員各党派の皆様、札幌市議会議員の皆様、のほか腎バンク設立発起人の伊藤組社長、北海道電力株式会社社長、高崎太平洋観光株式会社札幌所長様、および各製薬会社様、等から多額のご配慮を賜りました。

こゝに患者会を代表いたしまして謹んでお礼を申し上げます。
今回のキャラバンキャンペンは、全国でも初めての画期的なケースとして注目され、腎臓患者会が主体性をもって全道一周の「草の根」運動を行ったところに大きな意義があったものと思ひます。

このキャンペンを通じて思考されることは、二つの組織が有効に連系機能いたしますためには、一人でも多く腎臓を提供していただける多くの方々のご理解と、ご協力が不可欠の思いますので道民の皆様深いご賛同を切にお願ひ申上げる次第でございます。

以上

況報告、全国の運動など語り合い、十勝も一緒に活動していくとの新倉新会長の言葉。又、患者の社会復帰の問題や闘病生活の知

恵をお互いに披露して第一日の夜はふけていった。

初その他病院透析

緊張もゆるみ熟睡

七月二十五日(水)、キャンペーン二日目、

今日は釧路市まで、透析を受ける関係で前日の半分の走行予定だ。九時に宿舎を出発。天気はくもり、時々雨といった空模様、最

初の目的地、幕別町に向う。三〇分程、走った所で幕別町、さらに三〇分走った豊頃町とキャンペーンを続ける。役場に戻り、町の市街地をゆつくりとマイクを持って流す。午前中の事で、町にはあまり歩いていない。浦幌町も同じように続ける。この頃、天気は雨降りとなり、キャンペーンには向かない。しかし、暑いよりは楽だ。

音別町駅前釧路腎友会上田会長が向かえてくれる。一緒に音別役場へ向う。小嶋助役が応待に出て下さる。十月一日からの一割負担の問題で、障害者助成制度を保障本人にも適用してくれるよう陳情する。そのあと、町内を雨の中、マイクを持ってキャンペーン、町の人々がテレビに出ていた人達ですね、頑張ってくださいと声をかけてくれる人が、この頃から増える。元気が出る。



長崎屋(釧路市)デパート前でキャンペーン終え、

白糠町に入る前に昼食をとる。町に入る
と町はお祭りで大通りは大変な人通りだ。
役場で、このお祭りで町長がお忙しいので
平田助役と今井保健課長が会って下さる。
色々とお話し、新築間もないピカピカの
役場を後に、今日の最終目的地、釧路市に
向う。

二時半すぎ、中心街に入る。勤医協病院
に寄り、我々の透析のデーターを渡し、透
析中の患者さんとしぼし話し合う。同じ機
械で今夜は我々が透析だ。

次いで我々を待つて下さる会員が集まっ
ている長崎屋の街頭キャンペーン会場に向
う、およそ二〇人の会員がゼッケンをつけ
て待つていて下さる。さっそく、マイクを



鰐淵釧路市長訪問、温かいもてなしを受ける。

持ち、チラシ、ティッシュ、風船などを配り、
登録をうったえる。買物中の市民が大勢い
てキャンペーンにも熱が入る。透析を終え
た人もかけつけて下さり、大いに盛り上っ
た。大熊さん、伊達さん、木口さん、東山
さん、志谷さん、田中さん、塩田さん、そ
して森川氏、大友氏、斉藤氏、酒井氏、齊
藤氏、渡辺氏、橋本氏、三原氏、佐々木氏、
貝研司氏、長岡氏、村上氏、早坂事務局長
の顔もみえる。みなさん有難うございま
した。

次いで、市役所に釧路腎友会の役員さん
と向う。市長応接室で鰐淵市長さん始め市
幹部の皆さんに向えて戴いた。

青年市長さんのテキパキとした指示で、
我々のお願いを各担当にそれぞれお話し
ていただいた。又、我々のキャンペーンに賛
同してカンパ金を市長のポケットマネーで
協力をいただき、恐縮しました。

次いで釧路新聞社に寄り、取材を受け、
釧路市立病院の透析室を訪れました。丁度
夜間透析に入る時間でみんな、透析中でし
た。ベットを回り仲間の皆さんと短い時間
ながら、色々とお話し合うことが出来、いか
に多くの人が移植を希望して、今透析を頑
張っているかと言う事でした。

一応の日程を終り、我々自身が透析を受
けなければなりません。勤医協病院に行き、
バジャマに着換え、予定より一時間あまり

腎臓提供の登録を

道連絡協の患者キャラバン

街頭で市民に訴える

「あなたの愛を賣(ウ)ン」
臓バンクへ」と腎臓病患者
が移植用の臓器提供登録を
求めて実施している全道キ
ャラバンが二十五日釧路入
りし、街頭で釧路地方腎友
会のメンバーと一緒に市民
に登録協力を訴えた。

腎臓移植を進める財団法人
北海道腎臓バンクが五月二
十八日に発足し、腎臓移植
センターが八月に市立札幌
病院に設置されるのを記念
して企画された。一行は道
腎臓病患者連絡協議会の中
村信夫事務局長を隊長に患
者ら四人で二十四日に札幌

「温かい人間愛を」と腎臓提供を訴える患者たち



を出発し、全道各地の市町
村を巡回している。

この日は午後二時過ぎに
釧路入り。市内幸町の長崎
屋釧路店前で待ち受けてい
た釧路地方の患者約二十人
と一緒に、買い物袋や
中の市民にパンフレットや
風船を配り「腎臓バンク登
録にご協力を」と呼びかけ
た。また中村事務局長や上
田弘・同腎友会会長の代表
はこのあと、市役所に鰐淵

市長を訪ね行政サイドから
の協力を要請した。
同腎友会の早坂事務局
長によると、釧路地方の腎
臓透析患者は約百五十人。
毎週三回、五、六時間もか
けて透析治療を受けてお
り、多くの患者は今すぐに
でも移植を希望している
という。

昭和59年7月26日 北海道新聞



市立釧路病院で透析中の仲間としばし歓談

遅れましたが、透析に入りました。全員が他の病院で透析するのが初めてでしたが、いつかつかれのせいか寝入ってしまいました。

終つて、十一時すぎに宿舎のホテルアグチに戻り、遅い夕食を軽く食べて、十二時すぎ、ベットにもぐり込む事ができました。今日の走行キロは、一五四キロ。

七月二十六日(木)、前日、風呂にも入れず、遅くなったので、スッキリしない朝でした。今日は一番キツイ日程です。今日中に旭川に入らなければなりません。回る市町村も八ヶ所、シンドイナア……。

景勝の地阿寒も 横目でながめ日程消化

八時に朝食を済まし、弟子屈町まで同行してくれる水沢氏、橋本氏、早坂局長がホテルに到着、エンジンスタート、天気はくもり、一路鶴居村に向う。途中で雨が降り出し、街頭キャンペーンが心配だ。

鶴居村では長者村長が待つておられた。地元腎友会のメンバーと共に色々要請し、

街頭キャンペーンは中止、直ちに弟子屈町に向う。空は少し明るくなって来た。役場では町長、助役が不在で、村上総務課長補佐にお会いいただく。

ここでも、釧路普さんと別れる。指示された道を二十五キロばかり入り、双岳台あたりで、これは道がちがうと気づき引返す。

屈斜路湖が見えないのでおかしいと思つていたが、やはり、今日は時間のロスが許されないと注意していたのに何たる失策、住野氏がスピードを上げる。しかし、北見腎友会との約束の場所、美幌町役場についた時は丁度一時間の遅れ。やはり、心配して弟子屈の役場に電話してくれていた。申し訳ない。

役場には、北見から川窪会長、鈴木氏、尾藤氏、中崎氏、長谷川氏が合流する。

急いで、一緒に大上町長さんをたずねる

賢臓提供呼びかけ

来釧の全道一周
キャラバン隊 市長にも協力求める

腎臓提供を呼びかける全道一周キャラバン隊(隊長・中

村信天道腎協事務局長)が二十五日午後、釧路入りし、長崎屋釧路店前で腎臓提供を訴えたあと、同三時半に市役所を訪れ、鶴淵市長に協力を求めた。

五月二十八日に財団法人北海道腎臓バンクが設立、続いて八月一日には市立札幌病院に腎臓移植センターの開設が決定している。この二つの機



街頭で腎臓提供を訴えるキャラバン隊

「遅かったですね、途中事故でもあったんですか」と心配して下さる。遅れをお詫びし、さっそく色々とお願ひ。「分りました」と力強い返事をいただく。わざわざ、玄関まで見送っていただき、一人一人隊員と激励のことばと共に握手。遅い昼食ながら急ぐため、ソバ屋に飛び込む。急いで食事を済ませ、いざ発車と云う時、バンクを見つけ、一同ガツクリ。近くのスタンドで急いで取り換え、一路端野町へ。風景明美な美幌峠もあっさり通過、観光気分にもひたれ

関がその機能を十分に發揮できるように、道腎臓病患者連絡協議会がキャラバン隊を結成二十四日から道内各地を回ってキャンペーンを展開しているもの。

釧路地方腎友会役員とともに市役所を訪れたキャラバン隊の中村隊長は「私たちは週二、三回、数時間の人工透析を続けているが、腎臓病を根治するには移植しかない。腎臓提供登録を多くの人に訴えていきたい」と語っている。

釧路新聞
昭和59年
7月26日

ない。アア……。

端野町は北見市と接している感じ、町長助役不在で田中総務課長が応対に出でくれる。くわしく説明し、協力を仰ぐ。しっかりと町長に伝えましょう。出来る限りの事は致しましょうと力強い返事をいただき、玄関まで見送っていただき、北見市に入る。

午後二時すぎ、すでに二五〇キロは走破している。疲労はだんだんたまってみんな無口だ。住野氏だけがハンドルをがっちり握りながら進む。鈴木副隊長は釧路で透析をしなかつたので体調が心配だ。岡根君は若いだけにまだ元気がうさ。小生はいささか暑さも加わり、動作がぶい。

北見に入り、約束の時間があるので、市



大上美幌町長の見送りを戴き、役場前で一枚。



北見久島助役さんに患者の苦しみを訴える。

役所に急ぐ。市役所で久島助役が待つていて下さった。地元の北見新聞、北見毎日の記者が我々の応接室での取材に当たっていた。地元の腎友会の庵さん、花岡さん、原口さんさらに中湧別から前会長の井上氏もかけつけ、十三名の会員で助役さんに色々な問題、地元の要望を含めて、お願いする。助役さんから、北見の患者のためにも、腎バンクへの協力をおしませんとのご返事をいただき、我々も元気が回復しそうだ。直ちに市内の二条通りの商店街において街頭キャンペーン。陽差しも強まり、日陰をさがして、チラシを配る。地元新聞の記者も取材してくれる。およそ一時間、予定のチラシもなくなり、地元の会員に別れを

つけ、次の目的地、留辺蘂町に向う。

遅れも取り戻し、予定通り、午後三時すぎ、役場に到着。木材の町だけに、木の工芸品がならぶ応接室に入る。春木助役が暖かく迎えてくれる。我々の労をねぎらい、広報紙への掲載、登録窓口の手伝いなど、さらに「我々の要求」を読んで、出来る事は当町でも取組みますと答えてくれる。我々の苦勞もこのようにご返事をいただけると報われる感じだ。ご協力を感謝し、ここで、同行してくれた川窪会長、尾藤氏、長谷川国広氏と別れ、大雪国道を一路上川町をめざす。

住野隊長が睡眠不足気味とつかれが重なる。隊長の中村がハンドルを握る。又、北



旭川腎友会の皆さんとの交流会

海道道の背骨を越えなければならぬ。一四〇メートルの石北峠めざして車は進む。休む間もなく峠を越え、一気に下る。大雪ダム、層雲峡と景勝地も隊員は眠り続ける。少々遅れて上川町役場に五時すぎに着く。役場はしまっているの、町を流し、出向えに来てくれた松山旭川腎友会会長の先導で今日の最終目的地旭川市に向う。

予定通り午後六時、旭川市の石田病院に着く、十数人の会員が迎えに来てくれる。柳本副会長、川添事務局長、斎藤さん、佐藤さん、原田氏、熊田氏、大石氏、早坂氏の顔が見える。旭川での交流会に出席のため、岩崎会長も札幌からかけつけ、我々を迎えてくれ、一人一人にねぎらいの言葉をかけられる。

まだ、街頭キャンペーンが残っている。直ちに、駅前通りの買物公園に車を止め、キャンペーンに入る。夕暮れの会社帰りの人、買物中の市民にチラシを配る。「糖尿病だけでなく登録できるかね?」「一家で登録しますので申込カード三枚下さい」と若いお嬢さんがもらってくる。七時前に予定のチラシは無くなり、石田院長招待の夕食交流会場へ行く。

おいしい中華料理を食べながら、にぎやかに交歓が始まる。アルコールも若干入って、つかれが出てくる。患者同志の結婚式がこの秋、挙式となり、松山会長が仲人を

暑さとつつかれてダウン寸前

激励の千羽鶴で一いき

七月二十七日(金)、朝から陽ざしが厳しい。今日は暑くなりそうだ。つかれも重なっているし、気をつけてキャンペーンを続けよう、みんなで確認して朝食を終え、車に乗り込む。松山会長が出動前に見送ってくれる。岩崎会長も滝川まで同行してくれる。今日は、第一次の最終日だが、今日の行程

に道腎協加盟のブロックは一つもない。組織の空白地域だ。かねて、全道の患者が一体となって患者運動を進めたいと念願しており、未組織を解消したいといつも会議で論議されるが、いまだ実現しない。実態だけでも知りたいと今回のキャンペーンに当たって、目的の一つにもなっている。

まず、滝川市に入る。市立病院に向う。あらかじめ、連絡が出来てないので、事務長に面会できず、総務課長さんに会ってもらう。今回の目的を話し、特に患者さんの実態を伺う。市立には七名の患者さんが午前透析しているとの事、透析室にも案内していただく。丁度透析中、みなさんに挨拶して、会活動について説明し、空知ブロック結成、その前に病院患者会を作っていたべくように話す。患者が少ないので会までは作れないが機関誌の配布、全道的な活動に理解をお願いする。

当日、同病院で透析している江部乙町の渡辺玲子さんがお母さんと機関誌の日程を



滝川クリニックで初キャンペーンの打合せ



森永敬志内市長を訪問、協力を要請する。

みて、玄関に待っていて下さった。さっそく渡辺さんに道腎協との連絡役をかってもらって、パイプだけはつなげる事ができた。

外に出ると、腎友会滝川クリニック透析者の会の会長馬飼野さんが、迎えに来てくれた。来年は道腎協に入ってもらって一緒に活動していく事になっている。

一緒に滝川クリニックに向う。ここは六十名近い近在八ヶ町村から透析に来ていると云う。浜益村からも通っているとの事。院長の菅原先生は、隊長と高校が同級だ。今は医者と患者のつながり、我々のキャンペーンに理解を示し、御厚意を受ける。更に冷えたプリンをいただき、暑さと疲労で

参っていた我々も一息つく。

さらに患者さんがキャンペーンの成功を祈って折ってくれた、千羽鶴をいただく。(改めて御礼申し上げます。)

次いで、滝川市では始めての街頭キャンペーンを患者さんと一緒に商店街で始める。滝川クリニックの浜口看護部長さんも熱心に協力してくれる。およそ一時間、かなり時間をオーバーしたが、多くの人にチラシを配る事ができた。

ここで、鈴木副隊長と岩崎会長が透析があるので、隊を離れ、汽車で札幌に向う。

隊は、中村、住野、岡根の三人となる。

十一時すぎ、次の訪問地、赤平市へ、時間がないので、歌志内市に直行する。

歌志内市は炭鉱町だが、今は色々な施設があり、福祉都市と云って良いほど力を入れている森永市長にお会いする。キャンペーンの趣旨にご賛同下さり、金一封をいただく。登録促進についても全面的な協力をいただき、空知の市町めぐりが暑さの中、バテ気味ながら続く。

午後二時すぎ、三笠市の市立病院に着く。

ここは各透析施設と結ぶサテライト方式の中心病院の一つで、全道から入院の患者が四十名近く、地元と近隣町村の患者が二十人ほど居る所だ。長い入院生活者も多い。室蘭市から来ているM君は、地元の中学に通学しながら入院生活を五年も続けている。来年は高校に行くかと入試勉強に張り切って



市立三笠病院で医師と患者の状況説明を聞く。

いた。週末だけ両親のもとに帰ると云う。入院患者の多くは合併症が多くほとんどストレッチャーで移動している。早く元気になるって家族の居る病院で透析できますように。

また、ホルモン不足で成長の止っている患者もいる。早く移植のチャンスがあれば今頃は健康で社会生活をおくっていると思うと、患者同志が助け合わねばと痛感する。愈々、最後の訪問地、岩見沢市に入る。市立病院を訪れ、事務室を訪問した後、透析室を訪れる。新しい病棟がすでに完成し、透析室も一部使用されている。

患者会がないので、泉姉長さんに別室でお会いし、色々患者の事や、患者会の事な

ど伺う、「何か結成の動きがありますよ、その時はご連絡しましょう」と心配してくる。

この頃、三人の体調はピークに達する。このまま透析に入りたい気持ちだ。普段出ない汗が身体中、流れる感じだ。

さあ、早く札幌に入って、透析をしよう。岩見沢から高速度道路を一気に札幌市内へ。路面は照り返しが強い。窓をばいばいにあげ、スピードをあげる。

四時すぎ、各隊員はそれぞれの病院で夜間透析に入る。

ジン臓病の苦しみを救って

滝川キャラバンがバンク登録訴え



八木沢さんから千羽ヅルを渡されるキャラバン隊員

【滝川】「私たちの苦しみを救って下さい」一生きのために隔日五時間の人工透析を続けているジン臓病患者らで作る北海道腎(ジン臓)病患者連絡協議会(岩崎会長)主催のジン臓移植普及啓発全道キャラバンが二十七日、滝川市を訪れた。

全道キャラバンは五月二十八日、道腎臓バンクが発足、八月一日には患者らの念願の腎臓移植センターが札幌市立病院に開設されるのを記念して行われた。同協議会の中村信夫事務局長を隊長に四人のジン臓病患者がメンバー。二十四日札幌を出発した一行は途中で人工透析を受けながら道東を回って来た。

今日の走行キロは丁度二〇〇キロ、第一次キャンペーンの合計は一、〇七〇キロ余り、チラシも一五、〇〇〇枚配った。登録カードもすでに五〇〇枚近く出ている。

滝川市役所前で市理事者や市立病院に入院中の患者らから激励された後、中・北空知の透析センターの「腎友会滝川クリニック」を訪問。菅原院長らの出迎を受け、透析歴五年の八木沢尊子さん(三三)から千羽ヅルを渡された。続いて市内の繁華街で、同クリニックの職員、患者らも加わり、道行く人々に腎臓バンク登録への理解を訴えた。

腎臓バンクの問い合わせは札幌市中央区南七西八、同協議会(電011-512-1615)へ。

有難かった

函館難病連の応援

八月十一日、(土) 今日から第二次キャンペーンの開始だ。中村と住野は同じ、新たに室蘭腎友会の佐藤昇事務局長が参加してくれる。若い人は、札幌東クリニックスの千葉君と未透析だがネフロローゼ患者の桜田君が加わる。総勢五名だ。

道難病センターを八時に出発、快晴、早朝で混んでいる五号線を走り、手稲から高連へ入る。

小樽市には、予定通り、うの外科クリニックの約束の場所に到着。

早朝にも拘わらず、津田会長始め、飯田渡辺さん、今津さん、小林さん、さん仁木さん、船木さん、高橋さん、広谷さん、吉田さん、西田さんが待つていて下さった。さつそく、NHK前の通勤途中の市民にPRしようとの事で出発。所が難病連から借りたマイク装置でコードが乗ってない。街中走り回ったが、早朝なのでまだ店が開いていない。残念ながら声なしでチラシ配りをやる。

市役所を訪問する約束の時間が来たので、街頭でのキャンペーンを終え、市役所に向う。市役所では、市長が会議中との事で、福祉部長の宮崎氏が応対に出て下さる。全員で面会しようとの事で部長宅があふれる。その中で、第一次と同じように色々とお願いをする。



小樽保健所を訪問、医療体制など伺う。



倶知安厚生病院訪問、透析中の仲間に入会を呼びかける。

続いて、保健所を訪れる。約束の所長が不在で部長さんが会って下さる。

窓口での登録の仕事をお願いし、倶知安町まで同行してくれる津田会長さんら五人と共に余市に急ぐ。

マイクの修理のため予定より大巾に遅れすでに余市町に着いた時は、十二時少し前急いで役場に行き、町長さんに面会を申し込んだが不在、部長も会議中で、担当課長が会って下さる。

次いで、田中内科病院を訪ねたが院長が忙しく、事務長も不在で、止むなくこアィサツだけして一路仁木町へ。もう十一時を越えているので、役場に寄らず、五号線を倶知安に直行する。



露暮の中、キャンペーン参加者全員で一枚。

倶知安では、病院が新築され、新たに昨年から透析が始まった厚生病院に向う。長谷川看護主任さんにお会いし、透析中の十数人の患者さんと色々とお話をする。患者会は透友会といい、山下氏が会長をしておられる。今後は小樽、後志ブロックと一つとして活動されるようお願いし、ニセコ、蘭越町と後志管内の町々を走る。倶知安では、津田さん、飯田さん、渡辺さん、今津さん、小林さんと一緒に昼食をとり、ここで別れる。

噴火湾が見える長万部町に着く、帰りがキャンペーンの予定なので、八雲、森、七飯と同じように通過する。

途中、大沼公園で道南腎友会の渡辺氏の



夜の湯の川で各病院代表と懇親交流会

出迎えを受け、七飯をすぎ、予定の五時半すぎ、函館市のグリーン・プラザ前に到着する。すでに、道南腎協の皆さん、函館難病連支部の皆さん、近江支部長さんも不由な身体ながら、我々腎臓病患者のために馳けつけて下さった。

始めに、隊長から挨拶があり、みんなそれぞれ、四角に立ち、街頭キャンペーンが始まった。一日の仕事を終えて家路に急ぐ人、買物帰りの人、アベックの人も通る。一時間を越える時間、熱心にチラシを配る。特に申込み用紙を求める方が幾人も出る。実際の登録結果が期待される。

ご参加下さった方は、平田泌尿器科から中野さん、児玉さん、田沢さん、武田さん、

渡辺医院からは福田さん、渡辺さん、石山さん、五稜郭病院から原田さん、斉藤さん、山口さん、白石さん、山口さん、協合病院から杉本さん、佐々木さん、仲野、各医院からは釣巻さん、さらに、スモン病の近江さん、山本さん、膠原病の扇田さん、パーキンソン部会から金子さん、二分背柱部会から武藤さん、ダウン症の桜田さんと難病連の皆さん、誠に有難うございました。

日中暑かった日差しも、夕方になるとこち良い風も加わり、隊員の疲れも感じない。

函館に来て大事な用が一つある。去る七月〇日に逝去された、道南腎協の石原会長（道腎協副会長）のお参り。家に奥様一人との事、しかし、お店に出て居られるとの事で、湯の川のホテルのお店に急ぐ。奥さんにお会いし、葬儀に参列できなかったお詫びを申し上げおやみを申し上げます。

夜は、花火大会でにぎやかな湯の川の寮で、各病院患者会の代表五人と隊員の交流会を夕食を兼ね始まる。色々な問題が提起され、議論が白熱、社会復帰、透析治療、移植の問題点など、九時すぎまで行なわれその後、ゆつくり温泉につかり、つかれを癒して、夢路に入る。この日三〇キロ走破。

北海道新聞

昭和59年(1984年)8月12日(日曜日)

腎臓病患者に愛を

腎提供を訴えるキャラバンと患者ら一函館・グリーンプラザで



全道キャラバン バンク登録訴え

腎(ジン)臓移植にご協 腎臓病のため人工透析を 力を入。北海道腎臓病患者 受けている患者は道内で約 連協協議会の「腎提供登録 二百五十人、道内には約二 ラバンク登録五人と地元の腎 促進全道一周キャラバン 百人いる。だが、根本治療 臓病患者二十人がセッケン 隊」が十一日、道南入りし、 である腎移植は、腎の提供 腎提供を訴え、バンクを配 函館市松風町のグリーンフラ ンクへの登録にご協力下さ ンクが十一日、道南入りし、 ザと七飯町中心部で街頭キ あり、道内で約八百人が移 ンクを希望しながら待たされ 腎提供についての問い合わせ 月、北海道腎臓バンク、北 せは財団法人北海道腎臓バ 月、北海道腎臓バンク、北 ンク札幌市中央区北一西 海道腎臓移植センターが設 立されたことをきっかけに、 された。全道キャラバンが編成 された。

昭和59年8月12日 北海道新聞

室蘭民放へ、登別市へ

日頃のご支援に感謝



伊達長崎屋前で買物客にキャンペーン

もチラシを配る。

そのあと、長万部名物のカニめしで昼食をとり、豊浦町、(農協ストア前)、虻田町(駅前)とキャンペーンを続け、三時すぎ伊達市に入り、長崎屋前広場で、店長の許可を得て、キャンペーン始める。大槌洋子さんが新たに加わる。小一時間のあと、室

八月十二日(日) 朝九時、函館を発つ、森八雲と街頭キャンペーンのみ行ない、長万部に入る。ここで室蘭腎友会の佐藤会長、石井副会長、合田氏、鈴木氏、篠原健一氏と駅前で合流する。日曜日、休日なのに有難い。さっそく、駅前広場と国道沿いをキャンペーン。国道で信号待ちの車中の人に



室蘭丸井デパート前で参加者とパチリ。

献腎登録を呼び掛け 全道キャラバン室蘭入り



12日に室蘭入りした腎提供登録促進全道1周キャラバンの一行

「献腎登録に、ぜひ協力を」と。北海道腎移植センター、北海道腎バンク開設を記念した腎提供登録促進全道一周キャンペーン・キャラバン(中村信夫隊長、五人)が、十二日午後室蘭入りし、室蘭民報社を訪れて趣旨を説明、理解を訴えた後、市内中島町の丸井今井室蘭支店前で、道行く市民に献腎を呼び掛けた。

今キャラバンは、先月下旬の道東一巡に続く第二陣。十一日に札幌を出発し、この日函館から室蘭入りした。狙いは、まず献腎PR。献腎登録は、五十二年から実施されており、七月末実績で約三千七百七人(道内)。実際の腎提供確率は年間、登録者五千人に一人といわれるだけに、「腎バンク開設を契機に弾みをつけ、今年中に一万人を達成したい」と意気込んでいる。

一行は、室蘭地方腎友会(佐

藤利国会長)メンバー十人と合流し、午後五時半から中島町の繁華街でPR活動。チラシや風船などを市民に配って、献腎登録を呼び掛けた。キャラバンは、きょう十三日、登別、白老、千歳などを回って最終目的地の札幌に入る。献腎登録に関する問い合わせは、北海道腎臓バンク(電話番号011-261局2033番)まで。

昭和59年8月13日 室蘭民報

蘭市に向う。

室蘭市では、真直ぐ、色々協力をお願いしている室蘭民報社に直行、編集局長に挨拶のあと、高木記者のインタビューを受け、丸井デパート前の街頭キャンペーンの場所に急ぐ。ここで、佐藤さん、中津氏、奥さんも応援に、室さん、それに看護婦の中村さんも駆けつけて下さった。総勢十五人でチラシを配る。丁度、相撲さん一行が巡業

に来ており、おすもうさんにもチラシを渡すと「輸血をちするが、腎臓は少し待ってくれとの事、早く強い関取さんになってねと激励する一幕もあった。

夜は、今次キャンペーンの最後の宿泊なので、登別グランドホテルに宿泊し、室蘭腎友会の役員さんも泊って夜おそくまで、交流会が続いた。この日走行二六五キロ。

最後の札幌、大通公園

お互いの健闘をたたえ打ち上げ

八月十三日(月) 愈々、最終日となった。温泉街をおりて、国道沿いの本町の市役所に伺う。平日なので、役所の訪問が再開する。市役所で関藤助役が待っていて下さった。腎疾患対策、腎登録運動では、全道有数の熱心な市で、日頃の協力のお礼を述べ、今回のキャンペーンの趣旨を話し、改めて協力をお願いする。「更に努力しましょう」と力強いご返事をいただき、次の白老町に向う。

白老町では、先日の日曜日、町職員が海水浴で溺死したとの事で、葬儀の忙しい中、

山手町長にお会いできた。また、社会福祉協議会の野村義一会長、保健指導係長の星さんにも面会でき、具体的に色々お願いする事が出来、わざわざ車まで送っていただき、一路高速道路を使って、千歳市へ入る。(苫小牧は第一次の日程に入っている)千歳市に入って、時間を合せて一時丁度市長を伺う(千歳の患者会のお力で予定をとっていた)

東峰元次市長、提民生部長が昼休み時間から待っていただいたとの事、かえって心配をおかけし恐縮する。千歳市の手厚い通



登別市役所訪問関藤助役に説明、協力を約束いただく。

昭和59年 8月14日 北海道新聞



〇：中隊長自身、週三回の人工透析を受けているが「これまでの登録者は三千人。キヤラパンの間は、直接車に登録を申し込みに来る人など、反応も良かった」と説明。東峰市長も「広報誌で登録の呼びかけをします」と、一行を励ましていた。千歳



〇：シン不全患者へのシン臓提供登録を促すよう、

道腎(じん)臓病患者連絡協議会の、全道一周キヤラパン隊(中村信夫隊長)が十三日、千歳市役所を訪れた。

〇：人工透析を続ける患者のため、道内にも今年、シン臓バンクとシン臓移植センターが発足。同隊はバンクへのシン臓提供登録を訴えるため、七月末から2回にわたり、車で道内を回った。今回は道南から札幌に帰る途中。市役所で中村隊長(写真左)が、東峰市長に登録促進の趣意書を渡した。



院助成事業に感謝をする。市長から千歳市にも患者が増えてきたので、市立病院に透析室を設置したいと、方針を伺い、私共にとつて誠に嬉しい計画だ。くれぐれもお願ひし、時間がなくなり、恵庭市は次回の時にお邪魔する事を誓い、高速を走り、最終地、札幌の大通公園へ一走り。佐藤副隊長は透析のため、ここで別れ、愈々今回のキャンペーンの総しめくり、札幌市に入る町並が新鮮に見える。豊平川を渡り都心に入る。全国統一キャンペーンのなじみの場所、大通駅前通りに進む。札幌腎友会のメンバーが見える。庄司会長、鈴木副会長、村本事務局長。各病院の幹事の皆さん。透析を終ったばかりの会員、これから透析に

入る前の時間をさいて駆けつけてくれた夜間透析の皆さん、総勢二〇人余り。マイクを持つ手にも力が入る。「道内二キロを走破し、唯今札幌に帰って参りました」多くの道民の皆様の暖かいご協力を各地でいただき、大きな成果を挙げることが出来ました。「札幌市民の皆様も何卒よろしく」と日差しの強い中、公園で休んでいる人、路上の人に、力強く呼びかける。本州からの人が帰ったら地元で登録しましょうと約束してくれる。風船も無くなる。ティッシュもなくなる。チラシも予定通り消化。一時間あまりのキャンペーンを終え、夜間の人は病院に急ぐ。



今回のキャンペーンは、全国的にも何泊もしてのものは、おそらく始めての事でしょう。それは広大な地域を持つ北海道から出来たと云えましょう。二、〇〇〇キロ近く、走ったのですから。賛助金をご協力下さった多くの皆さん、有難うございました。各地の腎友会の皆さん、我々の行動に大きなバック・アップをいただいた、有難うございました。そして、登録をしていただいた道民の皆さん、誠に有難うございました。まだまだ登録を必要とする数は少ないですが、皆様一人一人の善意が積み重なり、大きな力となつて、移植を希望する透析患者の明日に大きな夢と力と希望を与えてくれる原動力となる事と感謝申し上げ、報告いたします。(隊長 中村信夫記)

「これが透析生活の秘訣です」太田和夫著 1,500円
 「これが透析の全生活です」太田、東間、白井共著 1,400円
 「おいしい透析食メニュー」成富、品川、永尾、針馬共著 1,700円
 「これが透析療法です」太田和夫著 1,500円
 「これが腎移植です」太田和夫著 1,500円
 「慢性腎不全の正しい知識」丸茂文昭著 980円
 お申込は北海道腎臓病患者連絡協議会が各腎友会へ!!

全道キャラバン 大きい成果



広がるジン臓提供の輪

七月から道シテ臓提供者連協
議会(岩崎 会長、会員千五百
人)が二派に分けて実施したシ
ン人。とくに、自治体が率先して
臓提供登録推進のための全道一周
キャラバンが大きな成果を収め、
このほど終了した。期間中、全道
各地で新たに登録した住民は約二
百二十人、登録カードを近く道シ
ン臓バンク くにいかかっていた。
若者層にシ臓移植への理解が深
まったことに、同協議会は感激し
ている。

二百人が新登録

若者にも理解を深める

今回のキャラバンは、シ臓臓病
患者の長年の願った道シ臓臓
バンクと道シ臓臓移植センターの
開設を記念して行われた。第二
次
患者らに見送られ札幌を出発す
るキャラバンのメンバーたち
七月二十四日午前8時30分

その結果、期間中に巡回先で登
録に応じた住民はあわせて約二百
人。とくに、自治体が率先してP
Rを統括している室蘭地区では六十
人も集まり、キャラバン隊長とし
て登録業務を受け持つシ臓臓バ
ンクと移植手術などを担当するシ
ン臓移植センターと連携して、死
後シ臓臓提供の輪をどう広げてゆ
かした。

新たな登録者は二十歳代と五十
歳以上の二つの年齢層が中心で、
岩崎会長は「これまでどちらかと
いへば関心の薄かった若者が大き
な理解を示してくれたことが、な
りよりの成果です」と語ってい
る。今後の問題は資金の確保、そ
のほかに、自治体が率先してP
Rを統括している室蘭地区では六十
人も集まり、キャラバン隊長とし
て登録業務を受け持つシ臓臓バ
ンクと移植手術などを担当するシ
ン臓移植センターと連携して、死
後シ臓臓提供の輪をどう広げてゆ
かした。

また、キャラバンが行く先々
で、各自自治体を訪問し、シ臓臓
バンクの長い歴史を語り、シ臓臓
バンクと道シ臓臓移植センターの
開設を記念して行われた。第二
次
患者らに見送られ札幌を出発す
るキャラバンのメンバーたち
七月二十四日午前8時30分

金銭関係など民間からのものを含
めると、寄付金の総額は百万円近
くに達した。期間中、隊員は各地
の病院六十カ所で大透析患者と
シ臓臓バンクを近く道シ臓臓バンク
くにいかかっていた。
同協議会は、九月十六日にも全道
十一カ所で行くシ臓臓バンクを
実施する計画で、同会長はシ臓臓
患者への深い理解を訴えている。
シ臓臓バンクの問い合わせは、道
シ臓臓バンクまで。(電)札幌
(261)2033。

現在、道内で人工透析を受けて
いる患者は二千五百―三千人。う
ち、約千人がシ臓臓移植を希望し
ている。

◎賛助金、協賛広告をいただいた個人及び団体

○ご協力誠に有難うございました。

○医療関係

北海道透析医会	300,000
腎友会滝川クリニック	50,000
札幌中央病院	30,000
札幌東クリニック	10,000
札幌宮岸病院	10,000
西の里恵仁会病院	10,000
札幌開成病院	5,000

○腎バンク関係会社

伊藤組土建株式会社	50,000
北海道電力株式会社	30,000
北洋相互銀行	20,000
北海道拓殖銀行	20,000
北海道相互銀行	20,000
北海道銀行	20,000
太平洋観光株式会社	10,000

○医療機器、製薬会社

東レメディカル株式会社札幌営業所	20,000
旭メディカル株式会社札幌営業所	20,000
扶桑薬品工業株式会社札幌支店	20,000
三井製薬工業株式会社札幌支店	20,000
小玉株式会社札幌営業所	20,000
株式会社アムコ札幌出張所	10,000
株式会社クラレ札幌営業所	20,000
ガンプロメディカル株式会社札幌営業所	10,000
鳥居薬品株式会社札幌支店	10,000
株式会社テルモジャパン札幌支店	20,000

○議会関係

北海道議会自民党議員会	50,000
〃 社会党 〃	30,000
〃 道政クラブ	10,000
〃 共産党議員会	10,000
〃 公明党 〃	5,000
札幌市議会 自民党議員会	10,000
〃 新政クラブ	10,000
〃 公明党議員会	10,000
〃 共産党議員会	10,000

○その他

鰯淵釧路市長	20,000
森永歌志内市長	10,000
ロブソン株式会社	20,000
O M 企画	10,000
札幌クラリオン株式会社	10,000
滝川クリニック透析者の会	20,000
旭川腎友会	20,000

合計	1,010,000円
----	------------

キャンペーン収支決算書

昭和59年10月末現在

収入の部

摘要	金額	
賛助金	890,000	別ページ参照
協賛広告料	120,000	6社、チラシ広告
一般会計より	200,000	
計	1,210,000円	

支出の部

摘要	金額	
印刷費	192,000	チラシ、ステッカー、趣意書ほか
看板費	12,000	広報車取付
ティッシュ費	78,000	街頭P. R用
風船費	32,630	〃
宿泊費	148,710	3泊×4人、2泊×5人
昼食費	49,458	7日×9人
交流会費	84,800	各ブロック役員との交流夕食会
燃料費	57,282	広報車、ガソリン代他
装備費	44,860	ユニホーム、他
写真費	24,035	フィルム、D. P. E
通信員	4,300	送料、切手
高速通行券費	4,000	
修理代	3,050	パンク修理、他
旅費	8,400	列車利用分
雑費	8,760	
特別会計繰入	457,715	
計	1,210,000円	

住所・電話が変りました→ご連絡は下記へどうぞ

○北海道腎臓病患者連絡協議会

札幌市中央区北一条西10丁目
ダイヤパレス北一条605号
☎ (011) 261-3922

○札幌腎臓病患者友の会

住所、電話上と同じ

○腎友会商事

住所上と同じ
☎ (011) 261-3922

参加隊員からの報告

新たに見出した

多くの方々の善意に感謝

第一次副隊長 鈴木 啓三



7月24日朝8時より、市立札幌病院の前庭で、札幌腎友会会長の庄司さんの司会で、壮行会が開かれまして、たくさんの看護婦さん、患者と家族のみなさん、マスコミ関係の人達など50人程が集まってくさいまして、花束贈呈、庄司札幌腎友会々長と岩崎道腎協会長の激励の言葉があり、中村信

夫キャラバンキャンペーン隊々長の挨拶と続き、この後に紙テープ等で盛大に見送っていたが、札幌を出発しました。この間テレビ、新聞などの取材もあり、大変緊張していました。

苫小牧につくと、市役所で地元腎友会(つくし会)の人達が待っていて、みんなでさっそく、市長を訪問して、腎バンク等のPRをお願いします。

それから、苫小牧駅前で、チラシ、ティッシュペーパー等を配って、腎臓提供登録をお願いします。

そして(つくし会)の人達には鶴川まで送っていただきました。

苫小牧を出てからは、鶴川、平取、日高、

清水、芽室、の各町役場を順調に訪問して、腎バンク等のPRをお願いします。帯広につきました。

帯広では、5時を過ぎていて市役所にはよれませんでした。帯広駅前で、帯広腎友会の人達と、マイクで腎臓提供登録を呼びかけながら、チラシ、ティッシュペーパー、風船などを配りました。

これで第1日目のスケジュールを終わりで、宿で、帯広腎友会の人達と交歓会をしました。

翌日は、9時に帯広を出発しました。音別で釧路腎友会の、上田会長の出迎えて、釧路へ向かいました。

釧路では、釧路腎友会の人達と、市役所へ市長を訪問しまして、ここでも腎臓、バンク等のPRと腎臓病に対する理解をお願いします。

この後、釧路腎友会の30名もの皆様と、街頭キャンペーンを行ない、ティッシュペーパー、チラシ、風船を配りながら、市民へ腎臓登録をお願いします。

そして、釧路市立病院の透析室を見舞い

まして、患者さんを励げまして第2日目のスケジュールを終わりました。三名の隊員は透析をうける為に、釧路協立病院へと向かいました。

私は刺がむづかしいため、透析を我慢しました。

キャンペーン3日目は、弟子屈まで、釧路腎友会の仲間が送ってくれまして、その後、美幌で、北見腎友会の人達と待ち合わせたのですが、道に迷って1時間も遅刻してしまい、北見地方でのキャンペーンのスケジュールが、大幅にくるつてしまいました。(北見腎友会の皆様、ごめんなさい。)美幌、端野、を訪問して、北見につきました。

北見でも、市役所で、市長さんにお会いしまして、腎バンク等のPRと、腎臓病への理解を、お願いします。

その後、北見の市街で、北見腎友会の人達と、腎臓提供登録をお願いします。チラシ等を配りました。

留辺蘂で北見腎友会の人達と別かれて、上川へ、上川で、旭川腎友会々長の松山さんの出迎えをうけて旭川へ、旭川では、岩崎道腎協会長と合流しまして、旭川腎友会の人達と、買い物公園で、腎臓提供登録をお願いします。チラシ等を配りました。

その後に、旭川腎友会のみなさんと、石田初一先生を囲んで、激励会を開いて、く

下さいました。

第4日目は、8時半に旭川を出発、一路滝川へ、滝川では、滝川市立病院の透析室で、患者さんに会った後に、滝川クリニックへ行きまして、新聞の取材をうけまして、滝川クリニックの皆様から、金一封と千羽鶴の贈呈をうけました。

そして、滝川の市街で、滝川クリニック患者会の人達と、腎提供登録を、お願いして、チラシ等を配りました。僕は岩崎会長と、透析の都合で、滝川から、電車で札幌へ帰ってまいりました。

僕は、このキャラバンキャンペーンへ参加して、一番に残った事は、色々な人の善意と協力によって、僕が、今まで生きてきて、そして、これからも生きていくだろうと言う事が、わかった事です。

今までは、自分の通っている病院の院長先生他病院関係者には、世話になっているのを直接感じていました。

しかし、このキャラバンキャンペーンに参加して、今まで気付かなかった、様々な人々の善意を感じました。

まず最初に、見送りに来てくれた、市立札幌病院の看護婦さん、患者と家族の方々、街頭キャンペーンに参加してくださった、各地の腎友会の人達、駅前の食堂のコックさんが、腎提供登録カードをもらいにきて、テレビで見ました、頑張ってくださいと、

はげましてくださいました。パンフレットをもらっていった人が、もどってきて、両親の分と3枚の腎提供登録カードを持って

行き先々での ご協力に感謝

第二次副隊長 佐藤 昇



私は室蘭より第二次隊の道南方面へのキャンペーンに参加することになり、八月十日(金)、渡井病院で夜間透析を受け、先生始め、スタッフの方々にはたいへん親切にしてください、食事もとても美味しくどうもありがとうございました。

又、何かの機会にお願い致します。十一日七時五十分、道難病センター集合、マイクの前で「今日は晴天なり……」音量調整も良好、今日は気温が高くなりそう、

いった人など、数えきれない程です。本当にありがとうございました。

センターを後に一路小樽へ向いました。

当地では腎友会の方々の出迎えを受け、人通りの多いところで準備もOK、ここでハブニング、マイクの音が始どでません。街頭でチラシまきなどそのま、続けましたが修理に時間がかかり、小樽出発が予定より一時間半も遅れ、途中立ち寄り先にはたいへん迷惑をおかけ致しまして申し訳ありませんでした。

函館には夕方五時四〇分着き、腎友会及び、難病連函館支部の応援も受け、多くさんの人でキャンペーンを実施し、成功のうち第一日を終了致しました。

湯の川温泉の宿泊先では函館の各透析病院の代表と懇談することが出来、その中で将来の患者活動について、現在どのようなことをしなければいけないのかについて話し合えたことは、たいへん有意義であった

と私は思いました。十二日七時十五分、湯の川を出発、函館の朝市ではそれくお土産を手に、キャンペーンカーのエンジンも快適、長万部から室蘭まではチラシ、風船配りの連続、と同時に、私たち隊員五人は暑さとのたたかいでした。氷を入れたポットの冷たい水をいかに有効に飲むか皆んなも苦労していたみたいです。

十三日九時、登別温泉町を後に登別市、白老町、千歳市役所などを主に訪問致しました。

登別では関藤助役、白老、山手町長、千歳、東峰市長さんなど、私達と直接合っていたことが出来、又、その場で協力してくださることを約束していただき、「身体に気を付けて最後までキャンペーンを成功させて下さい。」と励ましのことはまごいいただきました。

本当にご協力ありがとうございました。最後にこの運動が全道はもちろんのこと、全国の隅々まで広がり、いずれ欧米並みになることをめざして地域での活動を大切にしていきたいと思えます。

新しい出会いで

人生経験を得る

第一、二次隊員 住野 健夫



キャラバンにおいての、自分の仕事は、特に、運転の方を中心に、たのむというところを、お任せつかりました。

一次、二次とも参加したわけですが、距離にしまして、約二〇〇キロメートルを走破しました。一日平均、約二百キロ、四百キロは、走りましたが、透析患者には、かなりハードの様に感じました。

又、第一次は、釧路にある釧路勤医協力病院で、透析を行いました。翌日の走行に、かなりの負担があったように感じました。

まず、自分が、このキャラバンに、参加しようと、考えたいききつには、自分自身が、透析をはじめて、今年で五年目に入り、なにか、道賢協に対して、協力が出来ないかと思っていた所に、このお話が、中村事務局長の方から、聞いたわけです。

又、現在、自分は、腎友会商事に、籍をおいています。

この事務所は、道賢協と同じ場所であり、自分を、かたちばかりですが、道賢協のおてつだいを、やらしてもらっています。

よって、この様な理由により、このキャラバンに、参加させていただきました。

との要求に対して、どこの市町村も、心よく引き受けてくださり、今後も、勢力的に協力して下さるとのことに、特に感銘を受けました。

そのほか、いくつかの市町村において、街頭でのキャンペーンにおいて、チラシなどを配布したのですが、各地の腎友会のメンバーの方が、応援に来ていただき、とてもうれしく感じました。その中で、各地の

患者の厳しい現状に

会の存在意義を痛感

第一次隊員 岡根 徳政



ラやファイナダーをのぞく、カメラマンたちを見て「ああ、これから自分は大変なことをするのだ」と思った。雲の間から見え隠れする太陽を仰ぎ見ながら「まだねむたいよう」などと、くだらぬことをつぶやきながら車に乗り込んだ。

その日は日和も良く出発には絶好の日だった。出発には看護婦さんや多くの人々に見送られ、岩崎会長が力説する中TVカメラ

メンパーと病氣について、又仕事について、さまざまの話が出て来て、自分自身において人生の新しい出会いが、出きた様な気がしました。

我々は、一本の線でもすばれた、患者であり、この様な交流が、多く出来る様に、今後とも、この様な行事には、どんどん参加しよう、考えるしいです。

初日最初の仕事は、苫小牧で市長に腎バンクへの市民への呼びかけ要求、街頭キャンペーンと、ほぼ予定どおり。時間帯のせいかな、思ったほど人通りも少なく、遠くを歩いている人に無理矢理渡したという感

じだった。そんな風に数十分たつうち一人の男性が登録したいと登録カードを持っていつてくれた。ここでは若小牧腎友会の人たちが嶋川、平取と市町村へのPRを協力してくれた。PRの内容は、趣意書、われわれの要求、ポスターなどを渡し、腎不全とはなにか？ 透析とはどんなものか？などを説明し、当地に患者が何人いるか？障害に対しての福祉対策は？などをたずねた。

各地の役所をたずねて、どうにも困ったことに、どこへ行っても、おいしそうなお茶がでてくる。あたりまえといえはあたりまえなのだが、つい手が出てしまう。とくに冷たい麦茶が最高……。

初日後半で、帯広までの道中、キャンベーンで配るための風船を車内で作った。坐れなくなる程作ったが、そのほとんどが割れてしまった。別に自分が割るつもりで割ったのではないが、なぜか6個の白い視線が自分に注がれた。いくつかの市町村を訪問して、帯広へ着くころにはかなり疲れていた。しかし、帯広へ5時を過ぎて着いたので、役所へは行かず、すぐ街頭キャンベーンを始めた。反応は上々で「がんばって下さい」「もう登録しました」などの声も聞かれ大変うれしく思った。また、この頃になるとニュースも広まり、今朝、テレビでやっていたやつだね」とか、さすがテレビの

力だと思った。その日は帯広に宿をとり、帯広腎友会の人たちと会食をし、仕事のこと、病気のこと、将来のこと etc を話した。皆、同じ悩みや苦しみをかかえて生きているんだ。

釧路は、身体障害者福祉都市と銘うっているだけあって福祉には力を入れているようだ。我々も市長の心づくしを受け、激励された。そして街頭では地元腎友会のメンバーがキャンベーン用のティッシュ、風せんを手に我々の到着を待っていた。人数はおよそ三十名。そのあと市立病院を訪問し、透析中の患者や関係者と話した。

話は少ししれるが、このあたりの地方は釧路を含め、帯広、根室と、ごくわずかな透析施設しかない。しかし、透析はやめるわけにはいかず、はるばる、となり町から通院している。ここでは、となり町といっても五十kmほど離れている。町では交通費の半額を援助しているというのだが、帯広、釧路は遠くて、かなり経済負担は大きいだろうと思われる。具合が悪くなつて、病院へ向う途中に亡くなった人もいるという。めずらしくもない話かもしれないが、自分もそうなるかと思うと背すじが寒くなつた。

そのあと自分たちも勤医協病院で透析を受けるのだが、ハードスケジュールを終えたあと、予定の一時間おくれで透析に入っ

た。

病院はあまり大きくなく、いかにも「病院」といった門がまるで殺風景だった。

穿刺が終つてひと安心したら急に疲れが出てきていつしか眠ってしまった。なぜかホテルのベットより病院のベットの方が寝やすい体質に変わってしまったのだろうか。その間に我々キャラバン隊のニュースが放送されたそうなのだが、あいにく、皆、眠っていて、見る事ができなかった。

どのくらい眠つただろう、冷たい風におどろいて目がさめた。透析を終えてホテルに着いた時は十二時半を過ぎていた。それから夜食をとり床についた。

翌朝、疲れた体を引きずるように、釧路を出発。釧路協の人々と鶴居村、弟子屈町とPRを続け、弟子屈で彼らと別れて美幌へ向う……はずだった。気持ちよく車を走らせながら地図と照らし合せ……「あれっ」、路がちがうのである。気がついたときはすでに二十五キロ、引き返すにしても、往復五十キロ、時間にして、約一時間の遅れ、どつと疲れが押し寄せてきた。美幌に着いた時には12時を過ぎており、そこで待機していた北見腎友会の人たちに心配かけてしまった。そこで昼食をすませ、さあ、出発というときに、ふとタイヤを見ると、なんとパンクである。近くのスタンドで直してもらったが、かなり、時間を損失して、6

時までに旭川へ行かなければと、スケジュールに追われて、それに加え、昨日の透析で、途水しすぎた余韻も残り、口には出さないけれど、皆、気がたつていた。

北見で、まず市長と対面し、PRをした。市長は、「あなたの方でキャンベーンをするのは無理ではないのか」と気づかっていた。ちやうど、このころから日ざしが強くなり気温も上つて来た。街頭キャンベーンは、立っている自分も、人ごみより日陰といった感であった。やはり北海道といえど、内陸は暑い。ここでも新聞記者が取材をしていた。

北見、留辺薬と回るうち、遅れは余々に、回復し、旭川に着くころは、何分も遅れていなかったと思う。

旭川でも地元腎友会の人々が待ちかね、道腎の岩崎会長たちと、夕暮れの市民へPRした。用意したティッシュやチラシ、風船は、みるみるなくなつて、そろそろやめようか、つてときになつて、二十才前半ぐらいの女性が、登録したいと申し出てくれた。キャラバンが始まって、登録したいと申し出てくれた人は、自分が知っている限りで、この女性で8人目だった。自分は今まで、若い女性は、比較的チラシも受けとらないと憤慨していたのだが、この一件で、コロッと考え方をかえた。内心、ホッとした気がした。

キャンペーンが終ると、石田医院の院長先生が、我々キャラバン隊を、あたたかく迎えてくれた。しばらく、飲んで食べて、腹の方も落ちついたころ、今までの疲れが、どつとでてきた。もう食べる物もなくなるというときに、院長があらわれ、話をしたり聞いたり、そのうち隊長に向って「中村君、今度、論理的に話したい」などと、いろいろな話をした。

宿に着いたのは9時過ぎで、すぐに寝ようと思ったけれど、暑くて寝られたもんじゃない、床についても、テレビを見たり、本を読んだり、いつ寝たのか覚えていない。翌朝、最終日をむかえて、久々の晴の朝、疲れはピークに達していた。寝不足も重なって、体がだるかった、でも今日は札幌へ帰るんだって、あとは気力ががんばった。今日、訪問予定の滝川―岩見沢間は腎友会活動は、ほとんどなく、難所の一つであった。

まず、滝川の市立病院をたずね、腎バンクの説明、登録へのPRをした。市立病院をあとにするとき、我々の到着を聞きつけて、かけつけた腎友会クリニックの患者が、ぜひにということ、そこへもおじゃませてもらう病院関係者数名、記者一名、患者数名と我々、いつもどうりチラシ、懸賞書、われわれの要求、ポスターを渡して、PRをお願いするのだが、そのあと、街頭

キャンペーンに出る時に患者の一人が「大願成就」の千羽鶴が我々に贈られた。

市内での街頭キャンペーンも終わり、滝川を出発して、歌志内、砂川、奈井江、そして三笠、岩見沢と続く、中でも三笠の市立病院で、強いショックを受けた。透析室の中へ、入ると、まず目にとび込んできたのが、ベッドの半分にも満たない身長の子である、一見、小学校一年生ぐらいに見える。あとでスタッフの人に聞いてみると、その方は18才だということである。「どんなことを考えているのだろう」と思いつつ、声はかけられなかった。顔がやけに黒く目と歯の白さが、めだっていた。実際、話も聞いていたし、頭では解っているつもりだった。透析を始めると、成長が止まってしまうってこと、ここで、その極端な例をまのあたりにして言葉もなかった。

もう一人、8才から透析を始めて現在、中学生の男の子がいた。彼はこの間修学旅行へいって来たそう。彼の実家は室蘭で、週末に帰省するそう。彼の通学は、病院から学校、学校から病院へといった生活をもう何年も続けているにもかかわらず、我が質問に笑顔で答えてくれた。

彼も腎臓移植を望む一人だろう。第一次キャラバンは最終目的地の岩見沢へと向かった。ここは札幌で十数年透析を

続けている人のほとんどがここで透析を受けてきたそう。いわば北海道の透析の草分けなだけけれど、ここに腎友会活動がないことは残念である。透析室の婦長さんに登録の呼びかけをお願いして、その他いろいろ話をしていううち、どうやら、腎友会結成のきざしがあるということだ。

とをハンディに思っていない人が多いということ（もちろん顔に出さないだけでしょうけれど） 今回のキャラバンの結果を心待ちにしている人もいます。街頭キャンペーンで腎バンクを知った人がどのくらい登録してくれるかわからないけれど、道警事務へは電話が鳴りばなしだということ。病気になるって始めて健康ってすばらしいもんだってわかりました。

つかれたけれど 大きな体験でした

第二次隊員 千葉 重 則

何か知らぬ期待と不要を、懐いて集合場所に向った。十五分ぐらいして集合場所に到着したが、まだ、だれも来ていなかった。

「少し早く来すぎたかな」と思った。それから、少し時間が、たつていった。だれも来てくれないから、だんだん不安になってきたその頃、桜田君が、やっと来てくれた。後からメンバー全員が、来た。車に荷物を、運んで、見送る人々を、後に車は、キャンペーンに出発した。僕はカメラマン



八月十一日土曜日、キャンペーンの出発の日である。複雑な気持ちで家を出た。

もやる事になった。

初めの所は、小樽でまず、ゴム風船を、隊長の指示で作った。車の中で作るもんだから、なかなか、うまくいかなくて大変だった。高連道路で、百キロぐらいでいた。事故にあわなければいいなと思った。それから、小樽、余市、倶知安などを回って、函館へむかった。

六時ごろ函館へついた。その時は、もう疲れきっていた。早く寝たいなあと思っている人、もらってこない人が、半分ぐらいづついた。子供達は、風船をよろこんで、もらっていつてくれた。やつと函館でのキャンペーンが、終わった夜、九時すぎ、眠いので僕は、メンバー達より先に寝た。同室の桜田君のいびきが、うるさかった。彼もつかれているのだろう。その日は、寝不足のせい、あまり身体の調子が、良好ではなかった。

二日目は、森、八雲とキャンペーンをやろ、そこでも、やつぱり、もらう人ももらわない人が、いた。もらわないの方が、多いような気がした。キャンペーンをやっているうちに、これは、他人事では、すまされなれなと思った。街中を歩いている人にチラシやティッシュペーパーを配って、もらう人、もらわない人、もし自分が、僕らと同じ病気になる時、そういう人達は、

どう思うのだろうか、考えながらチラシを配っていた。やつと昼になって長万部のレストランでカレー飯の昼食を食べて、登別へ向った。

登別は、けっこう寒かった事と前日の疲れが、どつとでた。それと車の中でたばこを、吸っている人が、ほとんどだから、次日は、頭が痛かった。それから、一夜明けて、最後、千歳で、市長さんに会い、隊長さん達が対談していた。もうすぐキャン

ペーンも何事もなく終わろうとした。とその時、車が、燃料切れをおこしたのは、びっくりした。そして最後の目的地、札幌、大通で外とうキャンペーンをやって、腎提供

登録促進全道一周キャンペーンは、終わった。札幌が新鮮に見えた。キャンペーンにあたって感じたことは、疲れと人々に物事を頼む大変さと、今、自分が、おかれている立場を知りました。

多くの仲間と知り合い。

これから大切にしたい

第二次隊員 桜田 泰 憲

隊員を乗せた車は、函館へ約往復八百キロを走り、十三日の昼過ぎ、多くの成果をあげて帰ってきました。

私としては地方腎友会をたずねるのは、始めてです。函館も二度目ということに緊張してありました。しかし、各地の地方腎友会の方々は暖かくむかえてくれ、いろいろ親切にしてくださいました。夕食の後の交流会も楽しく過ごしていただき出発時の緊張も忘れていました。

旅の途中、市町村を回り、その町の、駅



八月十一日、晴天の下で、第二次キャラバン隊が、北海道難病連の前を、午前八時に出発しました。中村信夫隊長以下五人の

前広場や、デパート前などで街頭キャンペーンを展開して、道ゆく市民に呼びかけをしました。その努力が実ったのか多くの人が関心をもち、チラシやティッシュを見ていただいたようです。

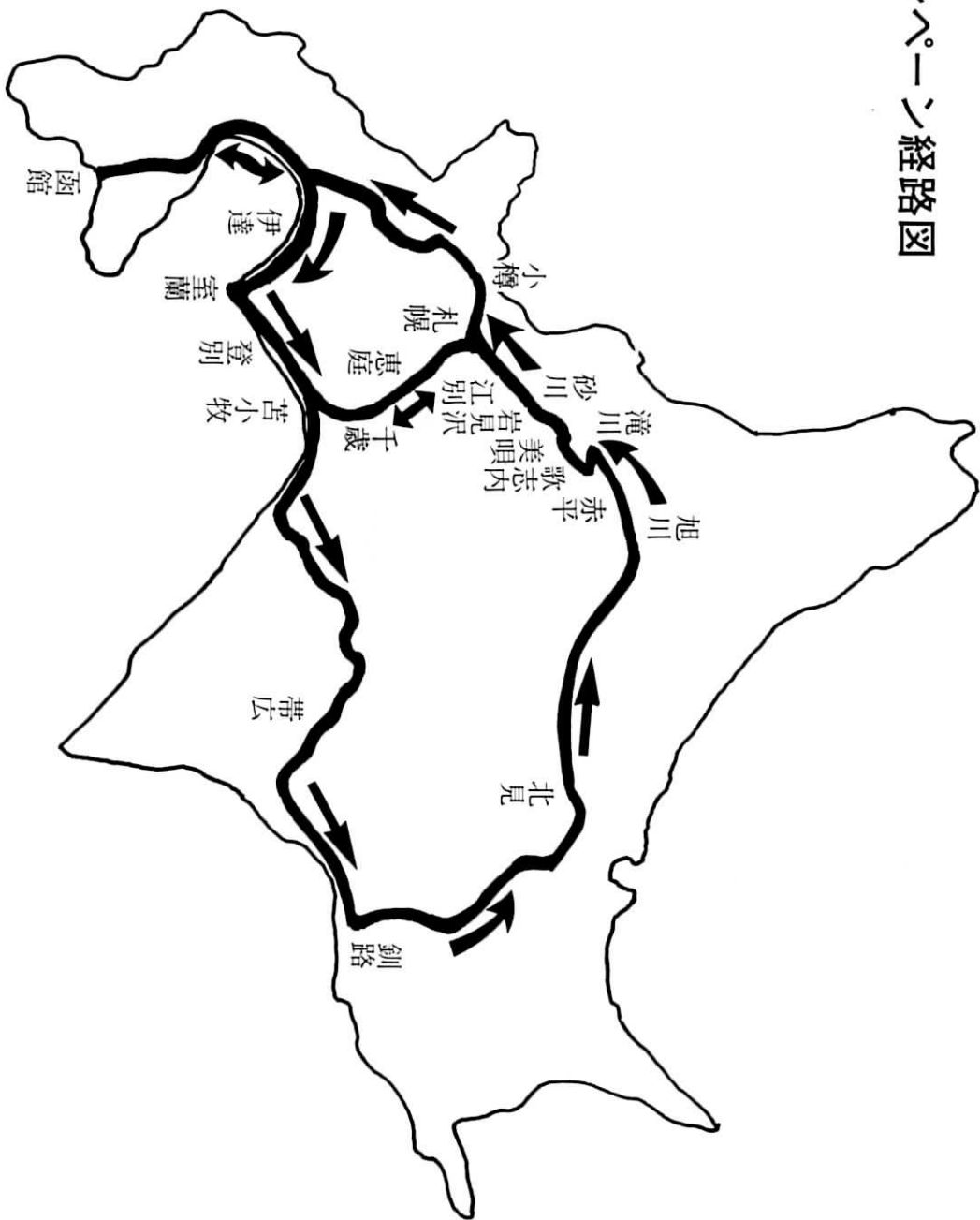
市役所や町の役場へ行き、市長さんや町長さんと会い、われわれ腎臓病患者の苦しみや、努力を理解してもらおうように説明をし、その市町村の地方新聞や広報紙にも載せていただくことになり、非常にありがたいことと思います。特に登別、千歳の市長さんは、熱心に話を聞いて理解してくださったようです。

新しい透析病院もたずねて、透析中の患者さんを見舞ったり、看護婦さんと記念撮影をしたり、楽しい一時を過ごしました。私は、こういう病院間の交流、特に地方病院の交流は非常に大事なことだと思います。各地の腎友会の活動や問題、要望などをきいたり、話しあったりしていました。皆さんはそれぞれの地区での問題があり、いろいろ大変だと思いました。

このキャラバンで、学んだことはたくさんあります。多少つかれましたが、その反面、たくさん問題を知り、又、たくさん知人ができ、またいつか会う約束をしていただきました。

最後に一言「中村さん、その他の隊員の皆様本当に御苦労様でした。」

キャンペーン経路図



21世紀からの贈りもの→第三の生命活性剤

アクアトン

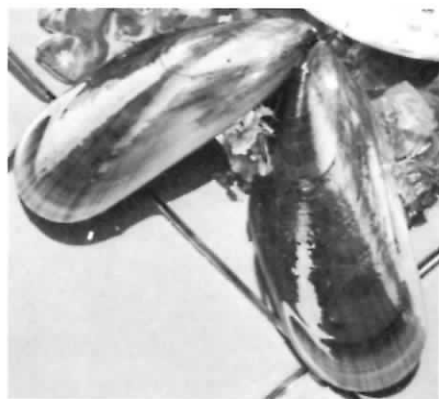
緑イ貝粉末食品

- ヘマトクリットの低い透析患者、疲れやすい方
- 神経痛、リウマチ、腰痛、関節炎等でお悩みの方
- 糖尿病、慢性肝炎などの病気の方
- 更年期障害でお悩みの方

↓		
確 実 性 ・ 即 効 性		
奇跡の貝	アクアトン	ミドリイガイ

- リンパ液の働きによって毛細血管の血行をスムーズにすることによって痛みがとれる。
- 新鮮な血液にすることによって全身の細胞を活性化し、自然治癒力を高める（ヘマトが50%上ります）
- 血液に活性を与え、数倍の働きをさせる。

緑イ貝成分表(100g中)	
蛋白質・アミノ酸・酵素…	68～69g
脂肪・炭水化物…	27～28g
ミネラル(無機質)	
ナトリウム…	2.0～2.1g
カリウム…	1.0～1.1g
マグネシウム…	290mg
カルシウム…	300mg
亜鉛…	5mg
銅…	0.5mg
鉄…	40mg
マンガン…	1.2mg
ニッケル…	0.6mg
リ…	200～300mg



定 価
1 セット (360錠)
¥36,000-



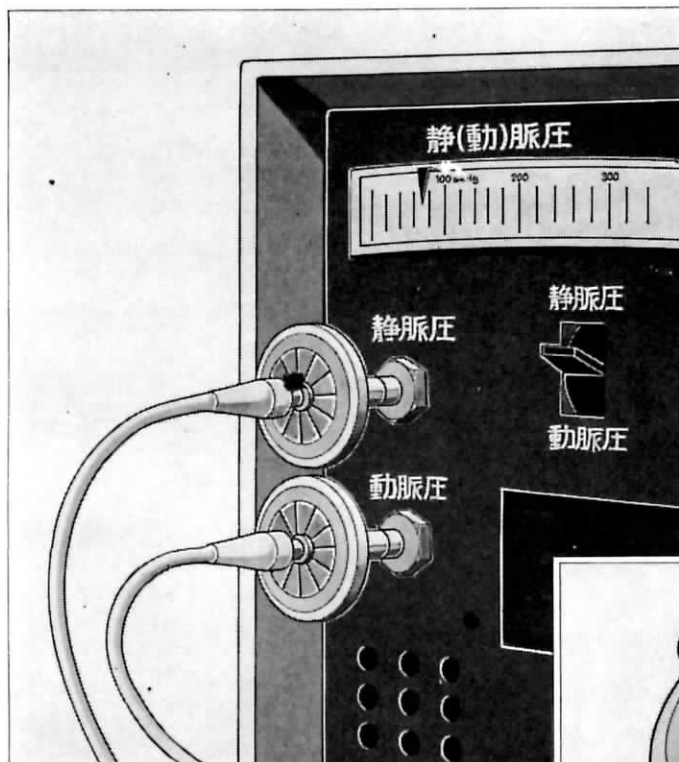
- 試食したい方は見本 (30錠) 差し上げます。(効果が分ります)

腎友会商事へお申込み下さい 札幌市中央区北1条西10丁目
ダイヤパレス北一条 605号
☎ (011) 261-3922

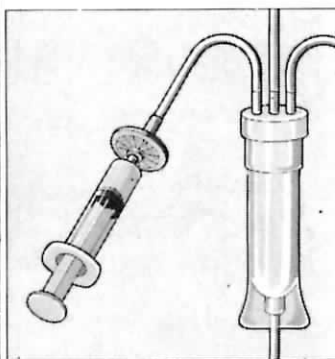
Nipro

ニプロ 透析用 ガスライン フィルター

透析治療において院内感染を防ぐために必要なものです。



院内感染の完全な防止のために、1回の使用ごとに交換していただくのが理想的です。



ガスラインフィルターをとりつけるのが望ましい箇所

- ① 動、静脈圧モニターラインと透析装置の間に各1個
- ② 動、静脈回路中のエアートラップの血液レベル調整ラインに各1個
- ③ 透析終了後、血液回収のための空気送りこみ時に1個

ニプロ ガスライン フィルター

ポアサイズ0.2ミクロンの疎水性膜を使っていますので細菌類は全て除去できます。

信頼される医療器

株式会社  ニプロ

本社 大阪市大淀区豊崎3丁目3番13号 〒531
TEL (06) 373-3155代